

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
カラー・コーディネート Color・Cordinate		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッションビジネス科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ファッションビジネス科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	福祉棟3F	授業内に指示する		授業中に指示します
授業の概要				
色彩の基本的な理論や知識を学び ビジネスデザイン社会で生かせるよう、基本的知識を習得する。産業や社会における色の役割を理解し、色彩の知識を持って実践力をつけることを会得する。				
授業の目標				
①カラービジネスにおける色を作るテキスタイル産業、色を選ぶ素材産業、色を（お客様に）見せるコーディネートについて説明できるようにする。②時代にあった新しい色（売れる色）を生み出し、全行程を指揮するカラー・デザイナー（コーディネーター）の仕事に関する知識を習得できるようにする。③世界に通じる感性として求められる、色彩の深い知識とセンスを身につけられるようにする。				
授業の方法				
テキストとカラー見本で基本を理解し、資料と色彩運用技術で色彩実務スキルをアップ、さらに提案や調査による提出物で、色彩の理解と着実な色彩運用能力を高める。				
学習の成果（学習成果）				
①ファッション色彩の基礎知識、技術を学ぶことで、アパレル産業、小売産業などで、アシスタント的業務につき、ある程度の自己判断をしながら、色彩に関する業務を遂行することができる。②商品企画・デザインに関する業務であれば、商品色の原案を目的に沿って提示できる程度の色彩技能（スキル）をもつことができる。③販売関連業務にて、店頭で色彩的な視点から商品陳列、展示できる技能・技術を身に付けることができる。④接客にて、個々のお客様に対し初歩的なカラー・コーディネートをおアドバイスすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 色の基礎知識、いろいろな色の分類、 産業における色の役割			
第2回目	色彩理論 色の見え方・感じ方			
第3回目	色の表示 色から受けるイメージ 流行色			
第4回目	配色と色彩調和 調和の技術、自然な調和			
第5回目	配色応用：イメージに合わせた配色 ①カジュアル②エレガント③ナチュラル④シック⑤ロマンティック			
第6回目	配色応用：イメージに合わせた配色 ⑥モダン ⑦クリア ⑧クラシック ⑨ポップ ⑩ゴージャス ⑪和風			

第7回目	暮らしに役立つ配色 ①ファッションの色の取り入れ方 ・人と差がつく色の着こなし術 [提出物]
第8回目	暮らしに役立つ配色 ②インテリア、③食事 ・おいしく見せる色づかい・料理を生かす器の色 [小テスト]
第9回目	食空間演出： テーブルコーディネート ①おもてなし演出例 ②シーン別演出 [演習]
第10回目	生活空間演出： インテリア、色彩計画 [演習]
第11回目	色彩心理：色が人に与える影響、 カラーセラピー
第12回目	幸せ色のウェディングカラー、 パーソナルカラー
第13回目	生活と色の役割： 人目を惹く街の中の色彩、 ブランドカラー [レポート]
第14回目	人が集まる場所で使える色の力、 色の力で仕事が捗る [小テスト]
第15回目	販売における色彩計画、 売れる商品の色づかい、 ディスプレイやファッションへの応用

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、与えられたテーマを自ら考えて、感じたり表現できているか。
レポート	20%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されているか。
調査報告書	30%	自ら調査し、考察、報告できているか、態度等も評価する。
小テスト	20%	色について学んだことを理解し、整理されているか評価する。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：色の教科書 GaKKen  
 参考書：色彩Ⅰ・Ⅱ (ファッション色彩能力検定試験準拠) FASHION COLOR (財) 日本色彩研究所

履修上の留意点・ルール

積極的に授業に参加することを望む。スケッチブック、色鉛筆・色紙 準備、検定試験は別途説明する。